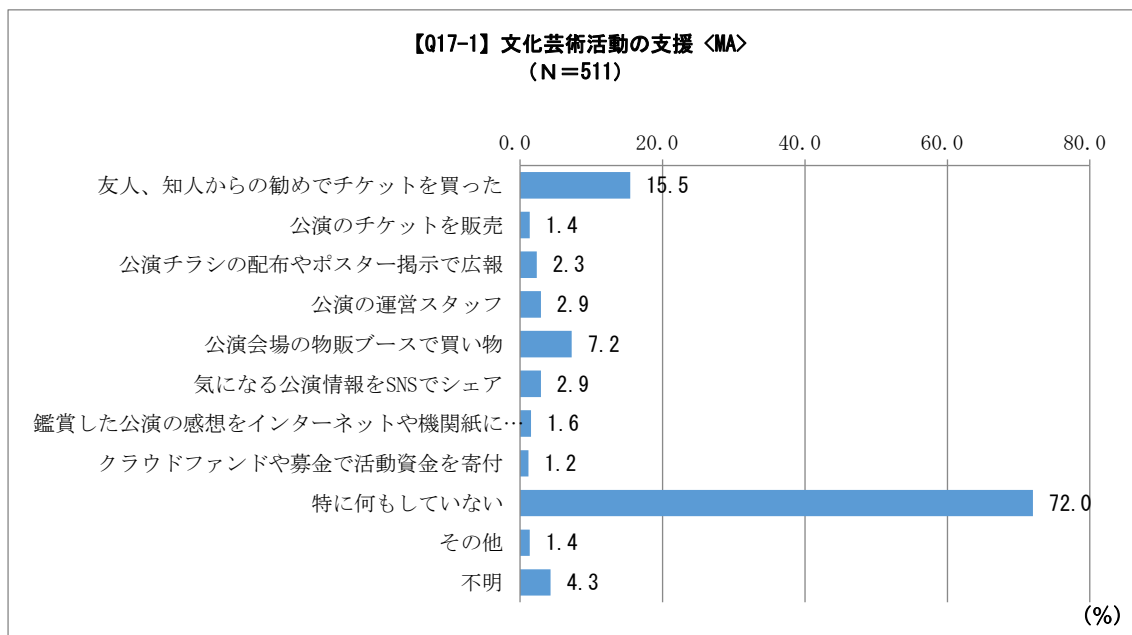


市民アンケート・団体アンケートの結果から

1 市民アンケート

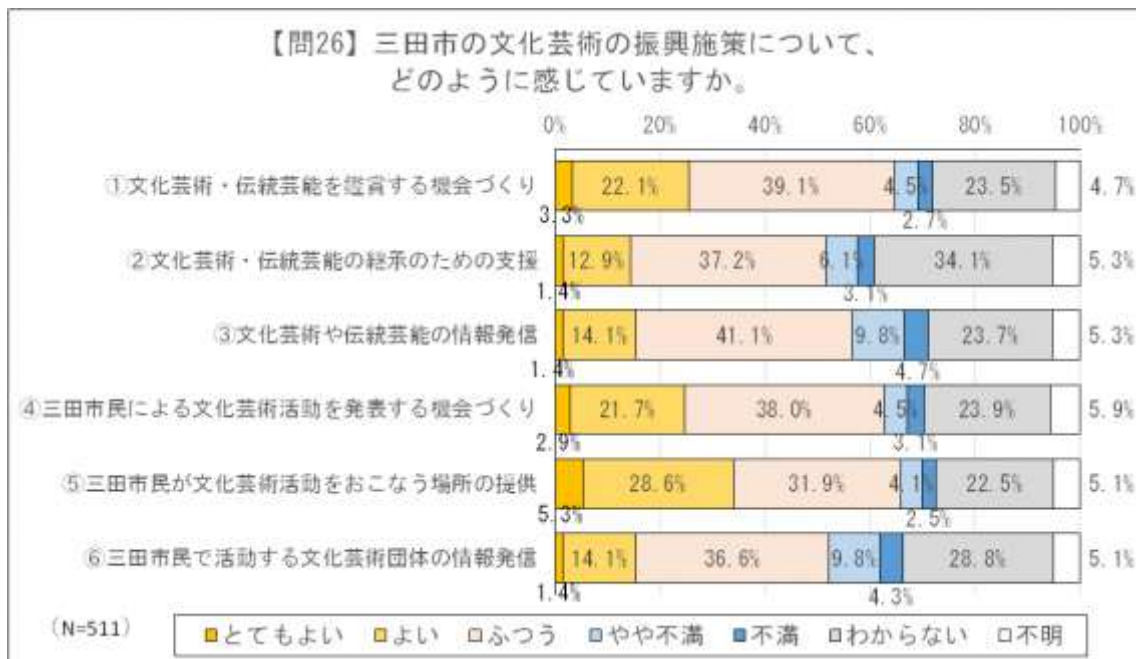


・文化芸術の支援について、全体の **72.0%**が「特に何もしていない」と回答している。具体的な支援内容を見ると、「友人、知人からの勧めでチケットを買った」が **15.5%**で、「公園会場の物販ブースで買い物」(**7.2%**)、「公演の運営スタッフ」「気になる公演情報を SNS でシェア」がともに **2.9%**となっている。支援としては、チケットの売買やブースでの買い物など、対面でおこなわれるものが強い傾向にある。

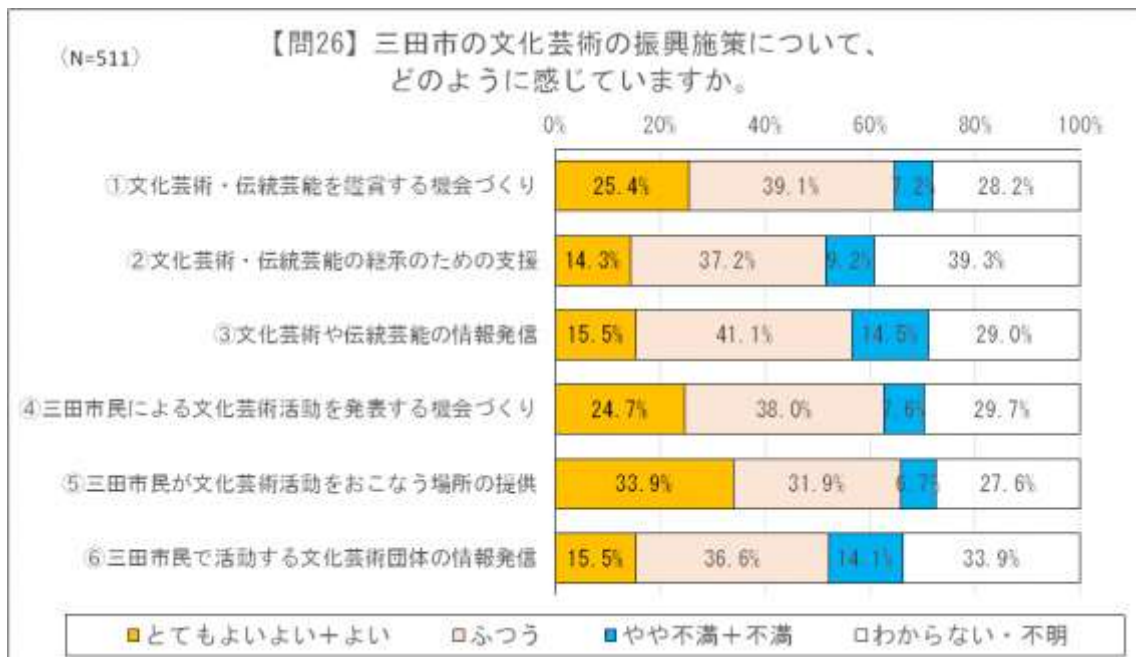
・「公演チケットを販売」(**1.4%**)、「クラウドファンドや募金で活動資金を寄付」(**1.2%**)など、出演者の支援に直結するものについては、低い結果になっている。

市民アンケート 問26

【選択肢：設問通り】



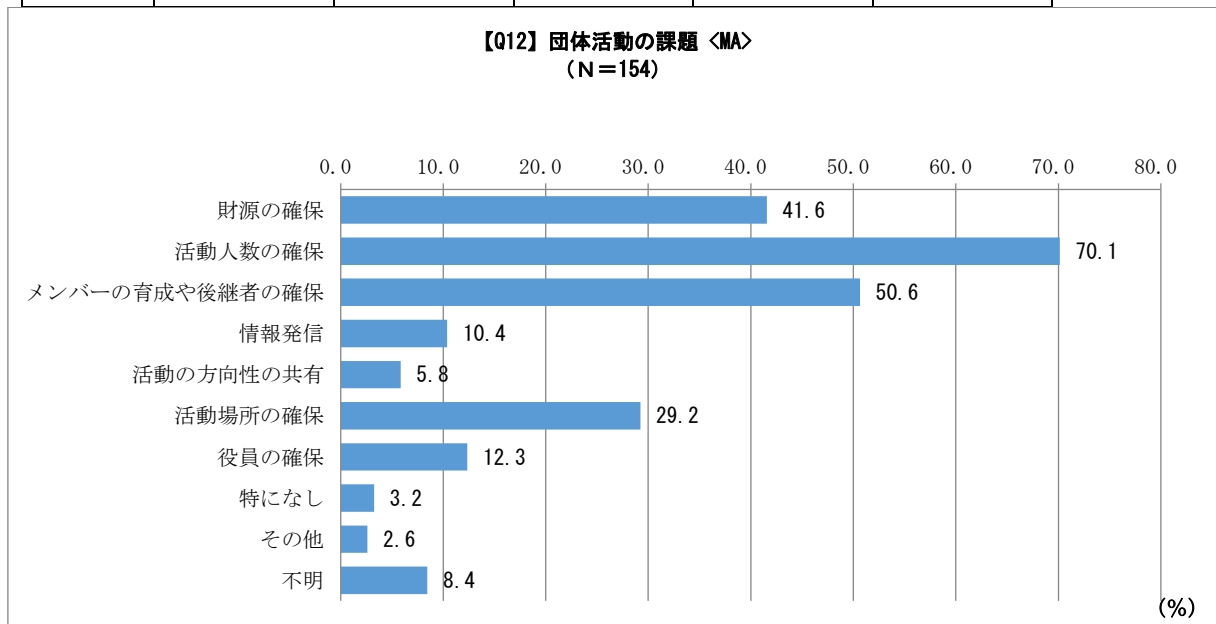
【選択肢：集約】



2 団体アンケート

【問 12】 団体活動を続けていくうえで、どのような課題がありますか。 <IN>

	全 体	財源の確保	活動人数の確保	メンバーの育成や後継者の確保	情報発信	活動の方向性の共有
件 数	154	64	108	78	16	9
%	100.0	41.6	70.1	50.6	10.4	5.8
	活動場所の確保	役員の確保	特になし	その他	不明	
件 数	45	19	5	4	13	
%	29.2	12.3	3.2	2.6	8.4	



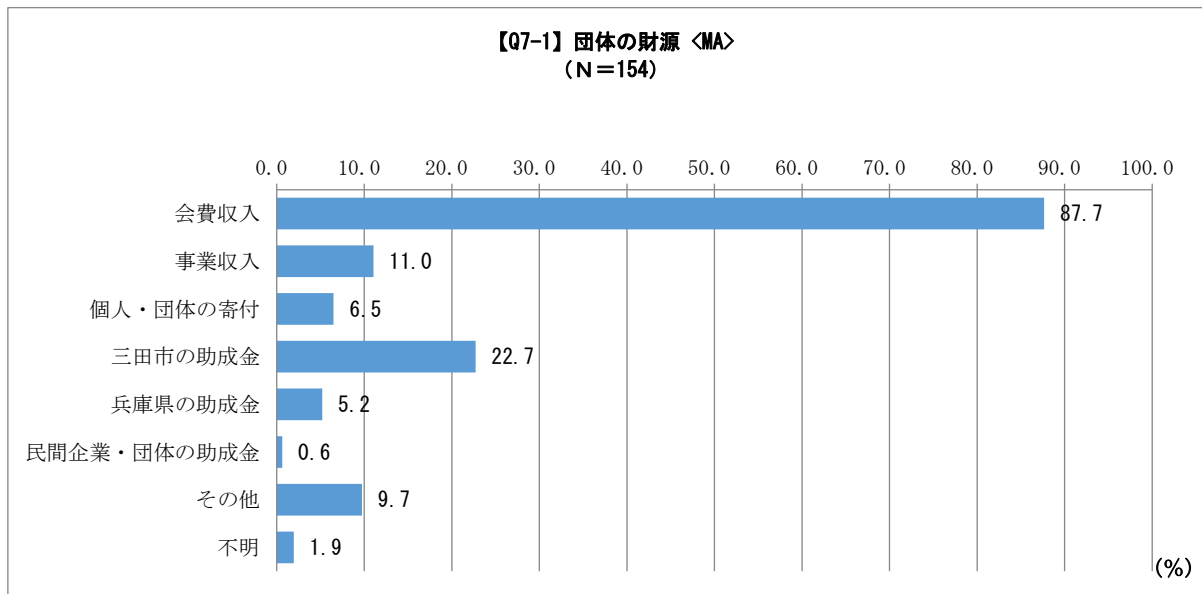
その他の回答 (各 1 件)

指導者の確保、組織マネジメントの強化、広報活動、活動装束の更新時の費用

・「活動人数の確保」がもっとも多く 70.1%を占めており、7割の団体がメンバー不足を感じていることが分かる。次いで「メンバーの育成や後継者の確保」(50.6%)、「財源の確保」(41.6%)となっており、運営を担う次世代メンバーの獲得や、活動を支える金銭面を課題として捉えていることが分かる。メンバー獲得に効果があると思われる「情報発信」については 10.4%と低い結果になっている。

【問7】 あなたの団体のおもな財源を教えてください。 <MA>

	全 体	会 費 収 入	事 業 収 入	寄 付 個 人 ・ 団 体 の	助 成 金 三 田 市 の	助 成 金 兵 庫 県 の	助 成 金 民 間 企 業 ・ 団 体 の	そ の 他	不 明
件 数	154	135	17	10	35	8	1	15	3
%	100.0	87.7	11.0	6.5	22.7	5.2	0.6	9.7	1.9



その他の回答 (各 1 件)

ボランティアの謝金／学校教育／大学の助成金／部費／八坂神社氏子祝儀及び神社会計より助成／保護者からの負担／社協の助成金／文化協会／地域（貴志区）の予算／学校の予算／市内のイベントに出演お誘いをいただき、出演したとき謝礼をいただく場合があります。

・「会費収入」が最も多く 87.7%を占め、次に「三田市の助成金」を得ている団体が 22.7%、「兵庫県の助成金」を得ている団体が 5.2%である。一般的に、同一事業で県・市両方の助成金を同時に得ることは難しいことから、助成金を得ている団体は3割に満たないことが分かる。「事業収入」を得ている団体は 11.0%であり、全体の1割程度となっている。

2. 活動への支援について(自由意見)

- ・緊縮財政の折、各種団体への施策見直しに一定の理解をしているものである。しかし、文化芸術(伝統)への最低限の保障は今後も続けて欲しい。
- ・芸術文化振興のためには各当事者団体の活発な活動がメインであるがこの時期メンバーの高齢なり手不足等、課題は多い。事務局を市で持っている団体については、それなりに事務局も活動に関与しもっと力を入れて欲しい。現状は団体の窓口でしかない感じである。
- ・①文化発展のため、文化振興基金の他、公的資金はいくらあり、誰がどのようにコントロールしているのか(例:文化協会、郷の音コンサート実行委、市オケ、市吹など)②何年か前、ある小学校教頭に合唱祭のチラシの掲示をお願いすると、スポーツを重視しており、協力する暇がないとの対応だった。専門の先生方や予算のバランスはどうか③音楽に限れば、郷の音ホールの運営も含め、この地域に密着して長期的視野で寄与していただけるプロ(売名行為に走らない単なる演奏家でない、例えば大阪音大学長のレベルの方)を市として招聘すべき④団体登録の届出は核市民と個別でなく統一フォームで1ヶ所にすればよいと⑤例えば、レジデンシャルとシティフレッシュの若手演奏者の定着できる環境を整えようとしているか。
- ・現行では、三田市文化協会が市民文化活動の窓口となり、郷の音コンサート実行委員会も音楽関係の企画実行を行なっているようですが、いずれも愛好家(アマチュア)の集まりで、特に文化協会は高齢者が大半を占めるなか、どちらとも企画事業に硬直化がみられます。今後の三田市における新たな文化振興のためには、それを担う組織や人材を見直し、限られた文化振興財源をより有効に活用するため、かつての三田市文化振興基金協会のようなプロとアマ両方の視点からなる組み上げが必要と思います。特に、プロは市在住、ゆかりに多くの人材があり、その方々を活用した地域循環型育成システムを構築し、子どもたちにできるだけ本物に触れ、夢を持って、しかも身近に文化芸術に親しんでもらうことが、三田の未来につながると信じます。既に、フルート音楽の関係者はそれを具現化しています。
- ・市民センターまつり再開のための支援のお願い:2年前から市の援助が打ち切れ、各地域のそれぞれに状況によって開催にばらつきが見られています。開催には住民の物的人的支援が欠かせません。本当の意味での文化芸術振興を考えるならば、地域独自の開催に難がある地域にこそ、行政支援が必要だと思います。
- ・旧市民センターまつりは、各地域で市民の手により継続開催されています。このイベントは会場の無料使用やセンターの方の協力なしではできません。さらなるバックアップをお願いします。